

# 衛生管理者免許試験 公表問題

## 労働衛生（有害業務に係るもの以外）

- ① 温熱条件
- ② 視環境
- ③ 必要換気量
- ④ 快適職場
- ⑤ 労働安全衛生マネジメントシステム
- ⑥ 腰痛予防対策
- ⑦ 受動喫煙防止のガイドライン
- ⑧ 食中毒
- ⑨ 感染症
- ⑩ 情報機器作業
- ⑪ 労働衛生対策
- ⑫ 健康保持増進
- ⑬ メンタルヘルス対策
- ⑭ エイジフレンドリー
- ⑮ 健康診断の検査項目
- ⑯ 労働衛生管理統計
- ⑰ 脳血管障害・虚血性心疾患
- ⑱ 一次救命処置
- ⑲ 出血・止血法
- ⑳ 熱傷
- ㉑ 骨折

【令和 8 年 4 月】

【問 3 6】 骨折に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 単純骨折とは、骨にひびが入った状態をいう。
- (2) 不完全骨折では、骨折端どうしが擦れ合う軋轢音や変形などが認められる。
- (3) 骨折が疑われる部位は、よく動かしてその程度を判断する必要がある。
- (4) 骨折に対する処置として、副子を手や足に当てるときは、骨折部分の上下の関節まで固定できる長さで、かつ、幅の広いものを用いる。
- (5) 脊髄損傷が疑われる場合は、硬い板の上に乗せて搬送してはならない。

▶▶解説◀◀

- (1) 誤り：単純骨折とは、皮膚に損傷がなく、皮膚の下で骨が折れている状態をいう。骨にひびが入った状態は、単純骨折の不完全骨折に分類される。
- (2) 誤り：「不完全骨折」⇒「完全骨折」。
- (3) 誤り：「よく動かしてその程度を判断する必要がある」⇒「動かさないようにする」。
- (4) 正しい
- (5) 誤り：脊髄損傷が疑われる場合は、硬い板の上に乗せて固定し、搬送する。

\*解答\* (4)

【令和7年10月】

【問38】 骨折及びその救急処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 開放骨折のことを複雑骨折という。
- (2) 複雑骨折は、感染が起りやすく治りにくい。
- (3) 骨折部を副子で固定するときには、骨折した部分に変形していても、そのままの状態を保持して、直近の関節部を含めた広い範囲を固定する。
- (4) 単純骨折とは、骨にひびが入った状態のことをいう。
- (5) 完全骨折では、骨折端どうしが擦れ合う軋轢音が認められることがある。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (3) (5) 正しい。
- (4) **誤り**：単純骨折とは、皮膚には損傷がなく皮膚の下で骨が折れている状態をいう。骨にひびが入った状態は不完全骨折。

\*解答\* (4)

【令和6年4月】

【問38】 骨折に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 単純骨折とは、骨にひびが入った状態をいう。
- (2) 複雑骨折とは、骨が多数の骨片に破砕された状態をいう。
- (3) 不完全骨折では、骨折端どうしが擦れ合う軋轢音や変形などが認められる。
- (4) 脊髄損傷が疑われる場合は、動かさないことを原則とするが、やむを得ず搬送する場合は、負傷者に振動を与えないようにするため、柔らかいマットに乗せる。
- (5) 骨折に対する処置として、副子を手や足に当てるときは、骨折部分の上下の関節まで固定できる長さで、かつ、幅の広いものを用いる。

▶▶解説◀◀

- (1) 誤り：単純骨折とは、皮膚に損傷がなく、皮膚の下で骨が折れている状態をいう。骨にひびが入った状態は、単純骨折の不完全骨折に分類される。
- (2) 誤り：複雑骨折とは、開放骨折のことをいい、皮膚及び皮下組織が損傷し骨折した骨が外に出ている状態をいう。
- (3) 誤り：「不完全骨折」⇒「完全骨折」。
- (4) 誤り：脊髄損傷が疑われる場合は、硬い板の上に乗せて固定し、搬送する。
- (5) 正しい

\*解答\* (5)

【令和元年 10 月】

【問 38】 骨折及びその救急処置に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 骨にひびが入った状態は、単純骨折である。
- (2) 複雑骨折とは、骨が多数の骨片に破砕された状態をいう。
- (3) 開放骨折では、感染を防ぐため、骨折部を皮膚の下に戻してから副子で固定する。
- (4) 不完全骨折では、変形や骨折端どうしが擦れ合う軋轢音が認められる。
- (5) 脊髄損傷が疑われる負傷者を搬送するときには、柔らかいマットの上に乗せるようにする。

▶▶解説◀◀

- (1) 正しい
- (2) 誤り：「骨が多数の骨片に破砕された状態」⇒「骨とともに皮膚、皮膚組織が損傷し、骨折部が露出した開放骨折のこと（開放骨折ともいう）」
- (3) 誤り：「骨折部を皮膚の下に戻してから」⇒「皮膚から突き出した骨は戻さず」
- (4) 誤り：「不完全骨折では」⇒「完全骨折では」
- (5) 誤り：「柔らかいマットの上」⇒「硬い板の上など」

\*解答\* (1)

【平成 30 年 10 月】

【問 38】 骨折及びその救急処置に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 骨にひびの入った状態を不完全骨折といい、骨が完全に折れている状態を完全骨折という。
- (2) 骨が 1 か所で折れている状態を単純骨折といい、骨が 2 か所以上で折れたり、砕けている部分のある状態を複雑骨折という。
- (3) 骨折部の固定のための副子を手や足に当てるときは、手先や足先が副子の先端から出るようにする。
- (4) 皮膚から突出している骨は、直ちに皮下に戻すようにする。
- (5) 脊髄損傷が疑われる負傷者を搬送させる必要があるときは、硬い板の上に乗せてはならない。

▶▶解説◀◀

- (1) 正しい
- (2) 誤り：「単純骨折」は閉鎖骨折ともいい、皮膚の下で骨が折れている状態。「複雑骨折」は開放骨折ともいい、皮膚、皮下組織が損傷し骨折部が露出し感染を起こしやすく治りにくい。
- (3) 誤り：副子を手や足に当てるときは、その先端が手先や足先から少し出るようにする。
- (4) 誤り：皮膚から突出している骨は戻してはならない。
- (5) 誤り：脊髄の損傷が疑われる場合は、救急搬送を要請し、動かさないことを原則とするが、やむを得ず搬送する場合は、頸部を動かさないようし、硬い板などの上などにのせる。

\*解答\* (1)